福島県立図書館移転 30 周年記念事業

「図書館の至宝」展

福島県立図書館は、1985 年 7 月にこの福島市森合の地に移転してから、2014 年で 30 周年を迎えたことを記念し、館内において年度を通し、情報発信の一環として当館の所蔵する貴重な資料を公開する「図書館の至宝」展を開催いたしました。

併せて、福島県に関わる事柄に関して専門的に研究しておられる方を講師に迎えて講座を開催いたしました。

１．新聞でたどる福島県立図書館のあゆみ　2014.4.4(金)～4.30(水)

＊２．錦絵に描かれた福島　2014.5.2(金)～6.4(水)

３．装丁の妙～みちのく豆本の世界～　2014.6.6(金)～7.2(水)

＊４．磐梯山噴火　2014.7.4(金)～8.6(水)

連続講座 第１回「1888 年の磐梯山噴火」磐梯山噴火記念館 副館長　佐藤公氏

7 月 6 日（日）13:30～15:30　41 名参加

５．児童図書研究室　『名著復刻日本児童文学館』　2014.8.8(金)～9.3(水)

＊６．堀江繁太郎展　2014.9.5(金)～9.27(土)

連続講座 第３回「アートクラブと堀江繁太郎」福島県立美術館 主任学芸員　堀宜雄氏

9 月 14 日（日）13:30～15:30　45 名参加

７．オーピー・コレクション『復刻マザーグースの世界』　2014.10.3(金)～11.5(水)

＊８．集古十種展　2014.11.7(金)～12.3(水)

連続講座 第５回「松平定信と『集古十種』」福島県立博物館 主任学芸員　小林めぐみ氏

11 月 16 日（日）13:30～15:30　42 名参加

９．『日清戦史 草案集』～佐藤文庫より～　2014.12.5(金)～12.27(土)

＊10．会津三方道路　2015.1.6(火)～2.11(水)

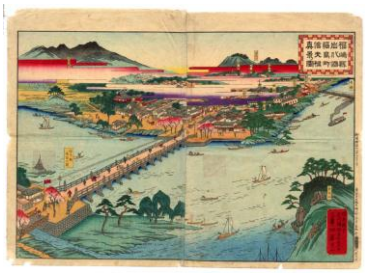
＊11．福島県史跡名勝の『鳥瞰図』　2015.2.21(土)～4.1(水)

展示 11 回のうち、＊印の福島県に関する資料を扱った 6 回について、改めて公開した資料を紹介いたします。

福島県立図書館移転 30 周年記念事業「図書館の至宝」展　より

錦絵に描かれた福島

錦絵は、「浮世絵の多色摺り木版画の総称」で、美人画や役者絵、名所を描いた風景画などがあり、江戸時代に庶民的な絵画として流行した。多くの色を摺り分け錦のように華やかで美しいことから「錦絵」と呼ばれている。今回は、中通りを代表して『福島県岩代国福島町信夫橋眞景ノ図』、浜通りから『奥州相馬妙見祭 古典画』、会津地方から『白虎隊英勇鑑』を展示した。



『岩代国福島町信橋眞景ノ図』

『福島県岩代国福島町信夫橋眞景ノ図』は、鬼県令 三島通庸の命で作られたアーチ型の石橋となった信夫橋を中心に、当時の福島の町並みを見下ろすように描かれている。弁天山や信夫山、県庁や板倉神社なども見える。明治18(1885)年に刊行され、画工 辻岡文助と出版人 伊藤彦七の名が記載されている。

『奥州相馬妙見祭 古典画』に描かれた野馬追いは、奥州中村藩の相馬家の鎮守である妙見社の祭礼である。安藤広重の画による 3 枚組。祭礼前日の中村城下～原ノ町宿までの旗本組の行列を描いた「行列之図」、当日の野馬追いの様子や見物人の賑わいも描かれた「野馬追之図」、翌日の小高妙見社前の野馬掛が描かれた「野馬取之図」で構成されている。

『奥州相馬妙見祭 古典画』

『白虎隊英勇鑑』は明治初期に出版され、会津戦争における白虎隊の悲劇を描いている。右手下には鶴ヶ城が煙に包まれ、戦場から山中を若松に向かっていた彼らが目にした飯盛山からの落城の情景である。白虎隊 16 名の切腹の様子が左半分に大きく描かれ、明治浮世絵版画界の代表的人物 肉亭夏良（小林清親）の作とされている。

錦絵の絵画として見る要素に加わえ、描かれた時代やその人々と対話できる楽しさも，地域資料としての醍醐味である。

『白虎隊英勇鑑』

当館所蔵は、「福島県立図書館所蔵錦絵目録」（『当郷土資料情報 第 44 号』に掲載）を作成し、既にデジタル化したものは当館ＨＰ「デジタルライブラリー」に『錦絵一覧』として、18 タイトルを公開している。

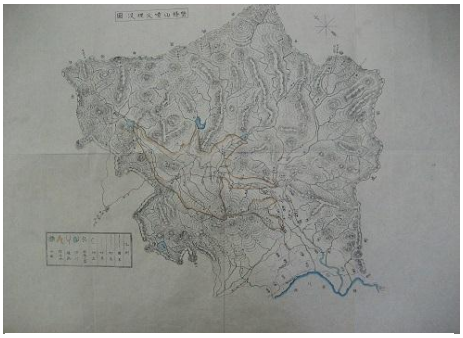
（地域資料チーム　原　馨）

福島県立図書館移転 30 周年記念事業「図書館の至宝」展　より

磐梯山噴火

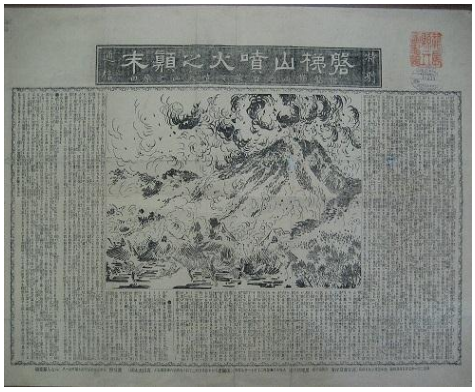
明治 21(1888)年 7 月 15 日の朝、磐梯山は大規模な噴火を起こし、461 名にも上る尊い生命と多くの財産を奪った。この展示では、近代日本初の大災害を伝える『**磐梯山噴火埋没図**』『**磐梯山噴火真図**』『**磐梯山噴火之顛末**』の 3 点を公開した。

噴火において、最大の被害をもたらした現象は岩屑なだれである。水蒸気爆発により山体が崩壊し、岩塊がなだれとなって瞬時に流下した。崩壊した総体積は 13 億㎥（東京ドームおよそ 1,000 杯分）、総重量は 31 億トン、そして、岩屑なだれの速度は平均 80ｋｍ／時であったとされる。出版者は不明であるが、明治 21 年に発行された『**磐梯山噴火埋没図**』は、岩屑なだれが及んだ範囲を描いたものであり、噴火当時の地形を知る上で貴重な資料となっている。



『磐梯山噴火埋没図』

明治中期は日本における新聞の黎明期に当たり、各社が競い合うように特色ある取材や報道を展開した。『**磐梯山噴火真図**』は明治 21 年 8 月 1 日の東京朝日新聞の絵附録として発行されたものである。洋画家・山本芳翠が現地で写生を行い、版木を合田清が彫り上げた。これは実写に近い図として、大きな反響を呼んだ。



『磐梯山噴火之顛末』

新聞がマスメディアの主力となりつつあったが、並行して錦絵や錦絵新聞、瓦版も多くの支持を得ていた。大阪のみむろ屋書舗が明治 21 年 8 月に発行した瓦版風の『**磐梯山噴火之顛末**』もその一つ。紙面中央に大きく、噴火する磐梯山と逃げまどう人びとが描かれており、読者に理解しやすいよう、「磐梯山の沿革」や「噴火山の原由」（噴火の原因）もあわせて紹介している。

以上 3 点以外にも当館では、写真や錦絵が所蔵されており、破裂口や被害状況などを伝える 25 枚の写真『**磐梯山噴火写真**』（遠藤陸郎／撮影 1888）、噴火の様子が描かれた錦絵『**磐梯山噴火の図**』（井上探景／画 1888）や『**磐梯山噴火之図**』（土佐光／画 1888）は、同時に行った「ロビー展示」にて複製版を公開した。

岩屑なだれを再現する実験の様子

7 月 6 日には、磐梯山噴火記念館副館長 佐藤公氏をお招きし、ふくしまを知る連続講座 1「1888 年の磐梯山噴火」を開催した。展示資料の解説を中心に、自然災害に対する心構えについての話やジオラマを用いた実験が行われ、受講者から好評をいただいた。

（地域資料チーム　神谷　祥平）

福島県立図書館移転 30 周年記念事業「図書館の至宝」展　より

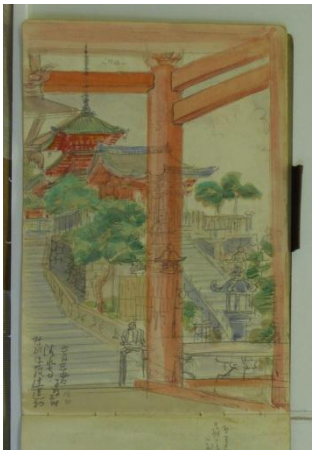
堀江繁太郎展

堀江繁太郎は別号を霞泉（かせん）といい、明治 6(1873)年 6 月 21 日伊達郡東湯野（現福島市飯坂町東湯野）に生まれた。飯坂小学校高等科を卒業し、東湯野青年学事研究会を結成。その後上京して絵画研究会白馬会に学ぶ。講習会で教員資格を取得し、明治 40(1907)年 12 月から県立福島中学（現県立福島高校）の教員となり、昭和 12(1937)年に退職するまでのあいだ図画、漢文、習字などを担当した。一方、郷土史家、日本画家としても活躍し、県史跡名勝調査委員として文化財保護にも貢献した人物である。昭和 21(1946)年 4 月没。

堀江は、旅先の風景や、家族の日常、自らが勤務する福島中学の光景などが描かれた、多くの写生帳やスケッチブックを残している。今回展示したものは、それらの一部である。

また展示に併せ、9 月 14 日に、福島県立美術館主任学芸員・堀宜雄氏を講師に迎え、ふくしまを知る連続講座 3「アートクラブと堀江繁太郎」を開催した。講座後には至宝展では展示しきれなかった写生帳や折本についてギャラリートークを行った。

アートクラブとは、油井夫山と富田不二夫が中心となり福島市で結成された美術団体である。紺野三郎、竹下明治郎、大石源太郎など 12 名の会員が美術を研究し、展覧会などの発表活動を展開した。これは福島県内初の美術運動といえる。堀江もこれに参加し、明治 44(1911)年から大正 11(1922)年まで、福島市において 10 回の展覧会を行った。



『大正六年』　清水寺

『大正六年』[1917]

京都方面への旅行を描いたもの。京都駅から見た景色や清水寺など、京都の風景が描かれてる。

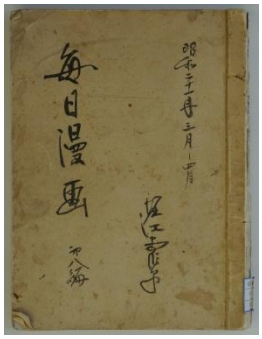
『小袖曽我と羽衣と膏薬煉』[1935]

折本。タイトルは能や狂言の演目だが、後半には福島中学の水泳大会の様子が描かれている。

『毎日漫画　第八編』1946

堀江最晩年の画帳。闇市や投票所などの日常風景が描かれており、終戦直後の庶民の生活がよくわかる。

『小袖曽我と羽衣と膏薬煉』水泳大会



『毎日漫画　第八編』　表紙（左）、　闇市の様子（右）

（地域資料チーム　石川　ひとみ）

福島県立図書館移転 30 周年記念事業「図書館の至宝」展　より

集古十種展

『集古十種』とは、全国各地の約 2,000 点の古文化財を、碑銘・鐘銘・兵器類（甲冑、旌旗、弓矢、刀劔、馬具）・銅器・楽器・文房・印章・扁額・古畫肖像・弘法大師真蹟七祖賛・定家卿真蹟小倉色紙・雪村所摹牧渓玉澗八景・名物古畫の各部類に分けて収録した古文化財図録である。

『集古十種』は老中 松平定信が編纂した。定信には、白河藩主や幕府老中という政治家として以外にも、古物の模写と蒐集を好む文化人としての側面があった。その古物を好んで書き写し、蒐集した一面が、古文化財図録『集古十種』に結びついた。

実際に定信の趣向に沿って全国各地に赴き現物調査にあたったのは、谷文晁や巨野泉祐、画僧の白雲らであった。文化財調査の手法には、臣下派遣の他に、定信自身が現物を手元に取り寄せ検分すること、旅行途上で調査を行うこともあったという。

今回展示したものは、江戸期の版木を使用して、青木嵩山堂から明治 32(1899)年 8 月 1 日に発行された再版本である。刊記に「松平家蔵版」とある。青木嵩山堂の再版本は、江戸期の『集古十種』85 冊に「総目録」3 冊を加えた 88 冊の大型袋綴じ和装本である。当館所蔵のものは、「碑銘目録」「鐘銘目録」「印章序目」「扁額目録」の 4 冊が欠けている。

『集古十種　兵器　馬具三』（写真左・左ページ）

『集古十種』に「佐藤嗣信鞍 家臣高松内匠蔵」と記載されている鞍である。陸奥国信夫荘司佐藤基治の息子 継信・忠信兄弟は、平泉の藤原秀衡の命によって源義経に従って各地を転戦し、継信は屋島の合戦で戦死した。この鞍は、継信の追善のために義経が屋島寺に納め、以来継信の鞍として伝わったものだという。『集古十種』の編纂当時は、定信家臣の高松家が重宝として所蔵していた。その後諸処に伝来し、現在は、継信縁の醫王寺（福島市）で所蔵している。

『集古十種 兵器 馬具一』（写真右）
『集古十種 兵器 馬具三』（写真左）

11 月 16 日に、福島県立博物館主任学芸員・小林めぐみ氏を講師に迎え、ふくしまを知る連続講座 5「松平定信と『集古十種』」を開催した。

講座の様子

古物の消失を恐れそれに備えること。古物から昔の制を学ぶこと。後世に情報を保存・伝達すること。小林氏が挙げた『集古十種』編纂の目的だ。『集古十種』に収録されている文化財のなかには、現在では所在の知れないものや消失してしまったものが多くある。劣化・破損が進みかつての姿を失ってしまったものもある。『集古十種』によって、私たちは 200 年前の失われた情報を知ることができる。

震災以後、本県の文化財は大変厳しい環境におかれている。福島の文化を残すためにはどうするべきか。『集古十種』から学べることも多いだろう。

（地域資料チーム　石川　ひとみ）

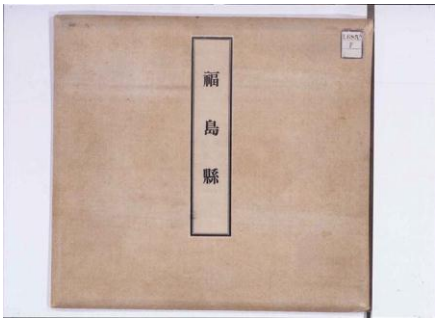
福島県立図書館移転 30 周年記念事業「図書館の至宝」展　より

会津三方道路

会津三方道路とは、会津若松市大町四ツ角を起点に三方に向かう道路で、明治 17(1884)年に開通された。一つは北方 米沢街道、一つは南方 日光街道、一つは西方 越後街道である。現在、米沢と栃木県益子を結ぶ国道 121 号といわきと新潟を結ぶ国道 49 号は、経路の変更が加えられてはいるものの、概ね三方道路を踏襲している。

この大がかりな土木事業を推進したのは、「土木県令」と呼ばれた福島県令・三島通庸であった。富国強兵政策と中央集権化を推し進める日本政府の意向を強く受けたこの事業は、東北の産業振興、経済の発展、そして軍事道路を確保することにあったとされる。

しかし、この道路建設は、県を賛否に二分する騒動を巻き起こした事業であった。工事のために会津地方の住人に対して過酷な労働や寄付金の徴収を行ったのである。当時活発になっていた自由民権運動を弾圧したこともあり、住民と自由党は大反対運動を繰り広げるに至った。反対運動をも抑えて、わずか２年、会津民の血と汗に塗れ、会津三方道路は完成された。

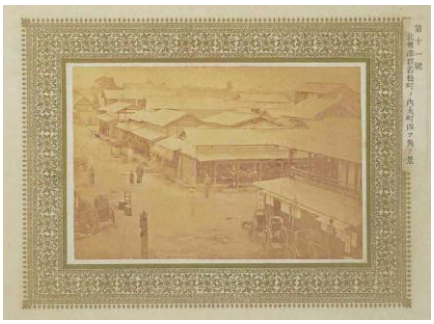


『福島県道路風景画帖』表紙

開通の翌年、明治 18(1885)年に発表されたひとつの画帳がある。**『福島県道路風景画帖』**と題されたこの作品は、三島の依頼を受け、『鮭』などの作品で知られる洋画家・高橋由一により製作された。近代土木技術を駆使して遂行された道路開削の偉業を記録するために、西洋の新しい技法を用いた高橋の絵が選ばれたとされる。高橋は、県内をスケッチ旅行して作品をまとめた。作品は絵絹に下絵をリトグラフ（石版画）で描き、水彩絵の具を使って一枚一枚美しく彩色を施して仕上げている。

『福島県道路風景画帖』
北會津郡若松市街ノ内大町四辻ノ圖

高橋が構図の参考にしたと推測される写真も残されており、同時に展示を行った。**『福島県下諸景撮影』**は、県内の道路を中心に撮影された写真で、上埜文七郎が明治 17 年に撮影したものとされている。これらは、戦後に三島の遺族より、福島県に寄贈され、現在は当館が所蔵している。



『福島県下諸景撮影』
第十一號
北會津郡若松町ノ内大町四ツ角ノ景

三島は、福島県令のほか、山形県令・栃木県令を歴任しており、その中で万世大路をはじめとする道路事業や那須の開墾、西洋風建築物の建築など数々の偉業を成し遂げている。高橋由一も三島の依頼により、3 県の新道風景や街の景観を題材に多くの作品を制作した。**『福島県道路風景画帖』**はその一部である。他の作品も各地に残されており、今年度 10 月～12 月には、那須野ヶ原博物館において、企画展が催されるなど、近代土木の姿を伝え続けている。

（地域資料チーム　神谷　祥平）

福島県立図書館移転 30 周年記念事業「図書館の至宝」展　より

福島県史跡名勝の『鳥瞰図』

鳥瞰図とは、「高い所から見おろしたように描いた風景画または地図」（『広辞苑』第 6 版）であり、あたかも空を飛ぶ鳥の目から見たような眺めであることからそう呼ばれる。ほかに「鳥目図」、「パノラマ地図」、「俯瞰図」、「鳥観図」などとも言われる。

大正から昭和初期にかけて、鉄道などの交通網発達ともに、観光名勝案内としての鳥瞰図が数多く描かれた。当館で所蔵している**『観光の福島県 福島縣史蹟名勝鳥瞰図』**は、日本一の鳥瞰図絵師と謳われた吉田初三郎が描いた作品である。

『観光の福島県 福島縣史蹟名勝鳥瞰図』

右中図は**『会津若松市及附近案内図』**の表紙である。昭和 8(1933)年に会津若松市が観光パンフレットとして発行したもので、図は青木志満六が描いた。鳥瞰図には、鶴ヶ城趾や東山温泉、第二十九聯隊練兵場等が描かれ、当時の若松市の様子が伺える。裏面には、漆器や清酒などの物産の由来及現況、会津若松市の今昔などが書かれている。

『会津若松市及附近案内図』

『福島電気鉄道株式会社沿線名勝案内』「福島電気鉄道沿線名勝図絵」は、大正 15(1926)年に発行され、吉田初三郎の弟子であったが、独立し日本名所図絵社を旗揚げした金子常光が描いている。当時、観光名所として東北第一の神境といわれた霊山や十綱橋を中心とした飯坂温泉が詳細に描写されている。

福島電気鉄道（現福島交通）の会社の所在地長岡駅（旧長岡村、後に伊達町、現伊達市）を中心とし、電車のほかに、掛田駅から川俣駅は汽車、霊山へは乗合自動車が描かれている。福島電気鉄道では、大正 15 年 4 月に電車開通しており、軽便鉄道から電車へと変化した当時の交通事情がわかる。裏面には、路線図のほか、信夫文知摺、向川原の桜、霊山など名所の解説や飯坂温泉・湯野温泉の電話帳も記載され、観光パンフレットの要素が盛り込まれている。

鳥瞰図は、地図としての要素のほか、描いた地域の特徴が際立たせて描かれている点が面白い。また、裏面には観光に役立つ情報が盛り込まれ、この時代、交通の発展とともに、観光文化が庶民の間に根付いていったことが感じられる資料である。

『福島電気鉄道株式会社沿線名勝案内』

（地域資料チーム　橋本　栄理子）

福島県立図書館移転 30 周年記念事業「図書館の至宝」展　より

参考資料一覧

錦絵に描かれた福島

『錦絵を読む 日本史リブレット 51』浅野秀剛／著 山川出版社　2002.9
『野馬追の里原町市立博物館研究紀要 4』野馬追の里原町市立博物館　2001
　「イメージ化された浮世絵のなかの野馬追」遠藤克英／著
『福島県郷土資料情報 No.44』福島県立図書館／編・刊　2004.3
　「福島県立図書館所蔵 錦絵目録」「貴重郷土資料探勝照 8　白虎隊英雄鑑」

磐梯山噴火

『磐梯山噴火百周年記念誌』磐梯山噴火百周年記念事業協議会／編・刊　1988.7
『共同企画展 会津磐梯山　2008』福島県立博物館／編・刊　2008.7

堀江繁太郎展

『福島市の文化財 福島市文化財調査報告書 第 34 集』福島市教育委員会／編 福島市教育委員会 1993
『東湯野概史』東湯野概史編集委員会／編　東湯野小学校創立百年祭実行委員会　1974
ふくしまを知る連続講座 3「アートクラブと堀江繁太郎」配布資料

集古十種展

『集古十種 あるく・うつす・あつめる 松平定信の古文化財調査 平成 12 年度第 1 回企画展図録』福島県立博物館／編　福島県立博物館　2000.3
『定信と文晁 松平定信と周辺の画人たち 平成 4 年度第 3 回企画展図録』福島県立博物館／編 福島県立博物館　1992.10

会津三方道路

『会津とっておきの歴史』野口信一／著　歴史春秋出版　1997.5
『三島通庸と高橋由一にみる東北の道路今昔』東北建設協会　1989
『近代を写実せよ。 三島通庸と高橋由一の挑戦』那須塩原市那須野が原博物館／編・刊　2014.12

福島県史跡名勝の『鳥瞰図』

『吉田初三郎の鳥瞰図を読む 描かれた近代日本の風景』堀田典裕／著 河出書房新社 2009.7
『吉田初三郎のパノラマ地図 大正・昭和の鳥瞰図絵師』（別冊太陽）平凡社　2002.10
『パノラマ地図の世界　自然を街を見渡す楽しみ』（別冊太陽）平凡社　2003.11
『写真でつづる福島交通七十年の歩み』福島交通　1977.9
『福島県郷土資料情報 No.51』福島県立図書館／編・刊　2011.3
　「貴重郷土資料探勝照 15　観光の福島県 福島県史蹟名勝鳥瞰図」